

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2020年8月21日

議席番号

23番

東村山市議会議長 あて

質問者

山田 たか子

記

1. 実態調査で市内の状況を把握し、子どもの貧困対策の推進を

コロナの影響により、職を失う人や収入減となる人が増え、雇用が不安定なひとり親世帯の暮らしも追いつめられている。保護者の貧困は子どもの貧困につながり、不安を抱える保護者も多く、心に余裕がない状況が続けば、虐待等の新たなリスクにもつながりかねない。現状の切れ目のない支援の継続と共に、既存事業の見直しや枠を超えた新たな独自支援策が早急に求められる。今後どのように保護者と子ども達を支えていくのか、支えていくべきかを一緒に考えていきたい。

1) 2018年東京都の子供の生活実態調査について

- ①東京都の実態調査結果と比較した本市の傾向と見解を伺う。また、どのようにして本市の実態を把握されたのか伺う。
- ②「子どもの貧困対策の推進に関する法律」では、地方公共団体には地域の状況に応じた施策の策定と実施の責務があるとされている。また、2019年の改定では市町村の計画策定が努力義務となった。①を勘案し、本市の今後の計画を伺う。
- ③近隣市でも同様に、東京都の子供の生活実態調査を元に計画策定をされているのか、状況を伺う。

2) 東村山市の状況

- ①本市の貧困率と今後の目標数値を伺う。
- ②医療機関の受診は生活の中で優先度が低く、虫歯や視力低下など、子どもの生活面にも影響すると言われている。重症化してからの受診は、かえって様々なリスクが高まる。子どもの医療機関への受診抑制状況はないか。
- ③学ぶ楽しさを知り、学びたい事を学べると、その後の人生が大きく変わってく

る。子ども達の可能性をつぶさないことが、社会にとっても大きな財産となる。経済的な理由で進学を諦める子どもはいないか。

④子育て世帯に占める、ひとり親世帯の割合と平均収入を、父子家庭・母子家庭それぞれに伺う。

⑤経年の市内子ども食堂・学習支援活動等の居場所事業数を伺う。また、これらの活動に対する市の見解と、現時点における当市の支援内容と今後の支援予定を伺う。

3) 貧困のもたらす影響

①所得状況や体験・所有物の欠如など、子どもの貧困問題は、対人関係や学習面に大きく影響を及ぼすことが考えられる。貧困問題の解決が当市の目指す「虐待・いじめのないまち」の実現にもつながるのではないか、いかがか。

②学歴が将来の職業や収入に影響している今の社会では、親の学歴による貧困の世代間連鎖が見受けられる。全ての子ども達が生まれ育った環境に左右される事なく、尊厳を持って生きていくためには、連鎖を断ち切る必要があると考えるが、市の見解を伺う。

4) 今後の取り組みとして

貧困問題に取り組むために、足立区のように横断的に検討を行う貧困対策本部の早期設置と、市内の状況を把握するための生活実態調査の実施を求める。子どもの貧困対策に取り組む東京都や近隣自治体の状況と照らし合わせ、今後どのように貧困問題に取り組んでいくのか、見解を伺う。